

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 46

令和6年【2024】

12月1日 発行



特集 学び継いでいきたい「平和の尊さ」

Contents

P.6 人権週間に寄せて
P.7 シリーズ「声」

P.8～9 園・学校ウォッチング
満濃南小学校・四条こども園

P.10 ホットニュース
P.11 子どもに心の居場所を

学び継いでいきたい

「平和の尊さ」

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く

自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの

安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、

圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、

名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、

ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存

する権利を有することを確認する。

(日本国憲法 前文 より)

「遠い過去の話」にしてはいけない

戦後79年。

今年も8月に入ると、戦争を特集した報道番組がたくさん放送されました。戦争を実際に体験した方や、その子、孫などがインタビューに答えるなかで、よく耳にすることはあります。「わたしは戦後、戦争の記憶に蓋をして、長い間沈黙を貫いてきた」「父・母(祖父・祖母)は長い間、このことを他の人はもちろん、私たち家族にも話そうとはしなかった」…。このようなことを聞くたびに、戦争の体験というのは、それほど残酷で辛く、恐ろしいものであり、その深い傷は、どんなに時間が経っても癒えることがないのだろうと感じます。

にもかかわらず、体験者が口を開こうと

ということ伝えていかなければなりません。「平和教育」や「平和学習」と呼ばれる分野です。

学校における「平和学習」

小中学校で、「平和学習」はどのように行われているのでしょうか。

そのような名称の教科があるわけではありませぬ。教育課程の至るところに「平和学習」につながる内容や見方・考え方が点在しているのです。

平和の尊さを理解するためには、まず、戦争の悲惨さや残酷さを知ることが不可欠です。また、毎日安心して学校へ行き、勉強をし、友だちと遊び、給食を食べる…。自分たちが当たり前前に繰り返している、こ

思い直す時が来るのは、やはり、辛い体験だからこそ次の世代に伝えなければならぬ、と強く決意するからにほかなりません。すでに79年以上が経っているにもかかわらず涙を流しながら語る姿から、その傷の深さ、体験の重さが伝わってきます。

さて、終戦の年に生まれた子どもは、今年79歳になります。物心のついた年齢で空襲や学童疎開を経験した方はさらに高齢、そして、実際に戦場で戦ったり、戦後強制抑留されたりした経験を持つ方たちにとっては、もつと限られるでしょう。これから先、戦争は「遠い過去の話」になってしまうのでしょうか。

そうならないためには、これからの未来を生きる子どもたちに、今ある平和の尊さと、それを維持するためには努力が必要だ

うした日常が、実は「平和」によって守られているのだということに気づき、一方で、世界には、そのような日常を保障されていない子どもたちがいるということに目を開く、そういったことも必要です。

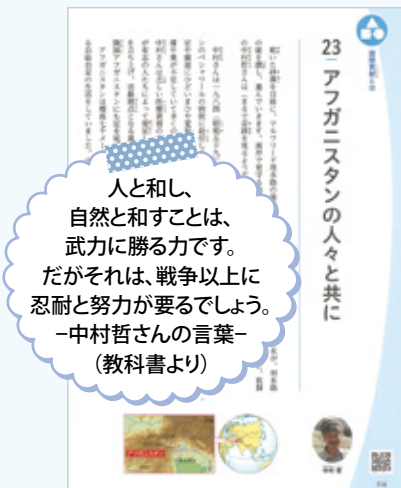
しかしながら、小学1年生からそのような内容を学んだり考えたりすることには無理があります。それぞれの発達段階に応じて、平和な世界の実現につながる考え方や生き方、平和な社会を形成していくこととする意欲や態度を育んでいくことが大切でしょう。

小中学校では、「国語、社会、道徳などの教科」「総合的な学習の時間」「学校行事等の特別活動」のなかで、このような内容や見方・考え方ににつながる学習を行います。次ページでは、その具体を紹介します。

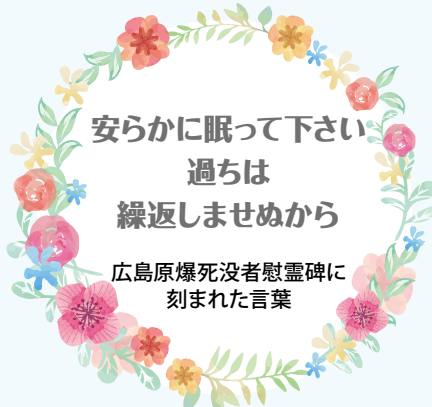
沖縄平和祈念公園にて
(満濃中学校の修学旅行/2024.6.5)

特別の教科 道徳

思いやりの心や力を合わせて協力すること、ちがいを認め合うことから、国際理解、国際貢献に至るまで、発達段階に合わせた教材で、子どもたち一人一人が自分の生き方や互いを尊重し合うことについて考え、学んでいく。



『あすを生きる②』（中2/日本文教出版）
～中村哲さんの生き方から、
国際貢献について考える～



「平和の礎」に刻まれている数え切れないほどの名前を見て、亡くなった人があれほどののを忘れたらいけないと思います。ひめゆり平和祈念資料館では、戦争のつらさと怖さがよく分かりました。
戦争が起きたことは忘れてはいけなないことで、伝えていかないといいけない。絶対にこれから戦争を起してはいけません。
満濃中3年 溝淵 梨紗



修学旅行・校外学習

広島・沖縄などを訪れ、実際にそこに身を置くことで戦争の悲惨さを肌で感じ取る。

好き嫌いとらわれず、誰に対しても公正、公平に接していくことの大切さについて考える小学2年生（道徳）



考える



全校生から託された千羽鶴を奉納する
満濃南小6年生（2024.10.25）



満濃南小では毎年、
全校生で千羽鶴を折ります

体験する



ひめゆりの塔で献花する
満濃中3年生（2024.6.5）

小中学校の

平和学習

様々な学習や活動を通して

- ・戦争の悲惨さや残酷さを知り、「平和の尊さ」を実感する
- ・平和な社会を築いていこうとする意欲や態度を育てていく



学校行事・児童会活動・学活など

同学年や異学年の「つながり」の中で、他者とのかわり方や折り合いのつけ方を学んでいく。

日本は戦争で初めて核兵器が使われた国で、広島の人たちは原子爆弾の熱線や爆風などの被害のなか、最後まであきらめずに生きる努力をしていて、すごいと思いました。戦争を体験した人たちがそのつらい体験を今も子どもや若い世代の人たちに伝え続けるのは、平和への強い思いを理解してもらい、平和な未来をつくるためだと考えました。
満濃南小6年 上原 ゆめ

放射線は、細胞、骨髄、リンパ節、毛根まで粉々にする威力があり、とても恐ろしい核兵器だと思いました。今でも1万2千121発の核兵器があり、それが使いやすく改良されているけれど、広島や長崎のように使わないでほしいと思います。戦争のこわさ、核兵器のこわさを世界中の人に知ってもらい、世界が平和になることを願っています。
満濃南小6年 池下 友晟

知る



「戦争語り部」（母親の被爆体験を語り継ぐ娘さん）の話を聴く小学6年生（2024.10.8）

社会科

- ・先の戦争について、戦地の様子や戦中・戦後の国民の暮らし、その後の復興に向けた努力を学ぶ。
- ・日本国憲法における「平和主義」の考え方や国際協力、国際社会における新しい問題について学ぶ。

総合的な学習の時間・学活など
戦争について調べ学習をしたり、戦争体験者の話を聞いたりする。



戦争について調べる

『アンネのバラ』
（仲南小・ホロコースト記念館/福山市より）



『被爆アオギリ二世の木』
（満濃中・原爆記念資料館/広島市より）



掲示物（卒業制作/仲南小）

環境

花や木、掲示物などが無言で伝える「平和の大切さ」

国語科

- ・戦争を題材にした物語や随筆、詩などを読み味わう。
- ・伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。



それぞれの立場の意見を理解しながら自分の考えを深めようとする小学6年生（国語）



『国語1』（中1/光村図書）より
～戦争のため、大人になることができずに死んでいった子どもたちへの鎮魂の思いを読み味わう～



『新しい社会6▶政治・国際編』
（小6/東京書籍）より



第32回 一日保育体験を終えて

こども園、小・中学校の連携を深め、子どもたちに寄り添った教育・保育を進めるために、夏季休業中に小・中学校の教員が、こども園で一日保育体験を行っています。今年度、保育体験をした先生方は、どんなことを感じたのでしょうか。その声をお届けします。

遊びは学び

こども園では、園児が夢中になっていることがありました。それは遊びです。折り紙をする子、かるたやトランプをする子、ブロックやドミノをする子など、自分のやりたい遊びを自分で決めて自由に遊んでいます。遊びの中で、友だちとコミュニケーションをとったり、体を動かしたり、疑問をもったりするなど、一つ一つの遊びにはたくさんの学びがあることに気付きました。

ドミノ遊びでは、「今までで一番大きな円ができるようにしたいな」「階段になるように並べたいな」など想像力を働かせ、自分の思いをもって並べる園児の姿がありました。途中でドミノが倒れてしまったり、思うように倒れなかつたりすることもありましたが、「できない」「もう、やりたくない」という言葉はありませんでした。「どう並べたらうまくいくのだろうか?」「ドミノの数を増やして、間を狭くしてやってみよう」と前向きな言葉がたくさん聞かれました。このように前向きに取り組めるのは、これまで「できた」経験の積み重ねがあったからだと感じました。そして、何度も何度も失敗を繰り返して、自分の思いに合うドミノが完成した時、キラキラとまぶしい笑顔で大喜びでした。その姿がとても印象に残っています。



幼児期に様々な遊びを経験し、成功や失敗を積み重ねることが、子どもの成長につながります。そして、小学校入学後の学習や生活に興味・関心をもって取り組む姿にもつながるのだと改めて感じました。

小学校でも、子どもたちが楽しく学べる環境や「やってみよう」という気持ちを大切にして、これからも一人一人に寄り添って、楽しく笑顔溢れる毎日を子どもたちとともに送っていきたいです。

四条小学校 教諭 三笠 智子

子どもたちの成長を支えることの喜び

私は、普段の生活の中で幼児と関わることはないのですが、今回の保育体験をとても楽しみにしていました。保育体験を終えて、遊びは子どもにとって学びであること、保育者は学びの支援者であることを再認識しました。

強く印象に残っていることは、1歳児に対する給食指導です。保育者がバナナの皮を全部むいて食べさせるのではなく、皮の一部に切り込みを入れて子どもにも渡していました。保育者が全てをするのではなく、子ども自身が自分でできるようにするために支援をすることで、子どもの学びにつながることに気付きました。遊びの中での保育者の指導方法も勉強になりました。おもちゃを投げて遊んでいた子どもに対して、ただ叱るのではなく、なぜいけないことなのかジェスチャーを用いて説明し、指導をしていました。こうしたことで、子どもは何を改めるべきなのかを理解できていました。このように、今回はとても有意義な体験となりました。保育の現場での保育者の役割や責任の重さを感じるとともに、子どもたちの成長を支えることの喜びを実感しました。

中学校でもこの体験を生かして、授業や学級経営で、生徒が自ら考えて成長する機会をたくさん確保したいと思っています。例えば授業では、学習課題を教員の指導で解決するのではなく、生徒が主体的に解決できるようにしたいです。

これから満濃中学校では、奏風祭に向けて合唱練習が始まります。私は教員が指導する場面と生徒が自主的に練習を進める場面を区別したいと考えています。

そのために、生徒が合唱練習をしなくなるような仕掛けを工夫したいと思います。



最後になりましたが、満濃南こども園の先生方には、私を温かく迎えてくださってとても感謝しています。ありがとうございました。

満濃中学校 教諭 信中 健吾

戦争に翻弄された人形たち

～人権週間(12月4日～10日)に寄せて～

2021年10月2日付の四国新聞に、『「青い目の人形」写真 小豆島で発見』という記事が掲載されました。発見者は、知人の求めで町内の空き家を片づけているとき、古いアルバムの中に偶然その写真を見つけたということです。記事はこう伝えています。

—学校の講堂と思われるステージに青い目の人形が飾られ、周囲には着物の日本人形も。その前で児童12人が踊りを披露している。ステージの上部には日米の国旗や幕が張られ、盛大な歓迎ぶりがうかがえる。

← 四国新聞に掲載された写真。
写真の下に赤い文字で『アメリカ人形ノ歓迎会 安田校』とある。
安田校とは安田尋常高等小学校(現・小豆島町立安田小学校)のこと。



「青い目の人形」とは、いったいどんな人形なのでしょうか?

昭和2年、アメリカから日本に、色とりどりの手作りドレスを着た一万三千体の人形が、「ひな祭りの仲間にして」と送られてきました。一体ごとに名前がつけられ、夏服、合服、冬服、それにパスポートや切符まで持った愛らしい人形は、起すとき目をあけて「ママー」と泣いたそうです。

日本を愛するギューリック博士は、当時悪化していた日米の関係を何とか修復したいと考え、日本の子どもたちに人形を贈ることを決めました。「世界の平和は子どもたちから広がる。子どもたちこそ平和の象徴」との願いを込めて。

贈られた人形は、当時流行していた野口雨情の童謡と重ねて「青い目の人形」と呼ばれました。全国の小学校や幼稚園などに配られた、どこでも盛大な歓迎式が行われたようです。

香川県に配られたのは百八体。安田尋常高等小学校や勝川尋常高等小学校にも配られたことが、記録として残っています。



寄贈された青い目の人形と一緒に写真に写る勝川尋常高等小学校(現・琴南小学校)の子どもたち

「青い目の人形」がたどった運命

「青い目の人形」は、現在日本に約三百体、香川県にはわずか1体しか残っていません。なぜでしょう。

人形の交流のあと、しばらくして太平洋戦争が始まり、アメリカは日本の敵国となりました。そのため「青い目の人形」は、英語や洋楽と同じ様に「憎い敵国のもの」として排除されたのです。

踏みつけられたり、顔や手を引きちぎられたり、火の中に投げ込まれたり、竹槍で刺されたりして、人形は子どもたちの目の前で、次々と処分されました。

一方で、戦争を乗り越えた人形たちもいました。「人形には罪がない」「子どもたちの目の前で壊したくない」と考えた教員たちが、校舎内に隠したり、家に持ち帰ってかくまったりしたものも、戦後、あちこちで見つかったのです。



野口雨情の童謡では「アメリカ生まれのセルロイド」と歌われますが、こちらの「青い目の人形」は、セルロイド製ではありません。

香川県にただ1体だけ残る「アナマ・ジュリーちゃん」。私立平石幼稚園(現・三豊市立仁尾こども園)に配られたが、幼稚園が戦時中に町移管となり、元園長が箱に入れて座敷の袋棚にしまっていた。現在は、吉祥院(三豊市仁尾町)に保管されている。

答礼人形「ミス香川」

青い目の人形のお返しに、日本も人形を贈りました。「答礼人形」と呼ばれる五十八体の市松人形です。人間国宝級の職人による手作りです。バスボート、客船の一等切符のほか、草履、駒下駄、傘、鏡台やタンス、お茶の道具一式などを携えた豪華なものでした。

各道府県から一体ずつだったのですが、人形にはそれぞれ「筑波かすみ」「岡山桃子」のように郷土にちなんだ名前がつけられました。アメリカに渡つてからは、「ミス茨城」「ミス岡山」と呼ばれたようです。アメリカ各地で盛大な歓迎を受けたのち、各州の博物館や美術館などの公共施設に展示されました。

戦争中は倉庫や地下室にしまわれたため傷みはしましたが、壊された人形は一体もなかったということです。



ノースカロライナ州に寄贈された。「今は不幸な戦争をしているけれども、人間同士は必ず信頼し合える、これはかつての友情の証の親善人形である」という言葉を添えて、戦争中もしまわれずに展示されていたという。

戦争は、人間らしい心を壊し、正常な判断力を狂わせ、人間同士の温かい交流を断ち切ってしまう恐ろしいもの。親善人形がたどった運命は、それを教えてくれます。

この人形のことを、子どもたちにも語り継いでいきたいものです。

参考・引用：『お帰らないミス香川』(1998.11.3) / 「ミス香川」里帰り実行委員会

園・学校 ウォッチング

満濃南小学校では子どもの「自立」を目指し、「健康な心と体の育成」を教育活動の柱の一つとして次のようなことに取り組んでいます。

目標に向かってチャレンジ

冬に行う縄跳び大会に合わせて、体育の時間に、前跳びや交差跳びなどの個人種目に加え、色別グループや学級で取り組む「8の字大縄跳び」も行っています。3分間でチーム全員が跳んだ回数を競っています。昨年の最高記録は6年生女子の371回でした。この記録は、香川県教育委員会が勧める体力づくりプログラム「讃岐っ子パワー」みんなでチャレンジ」で、高学年の部第2位の記録にもなっています。

この記録を目標に、今年は少し早く練習が始まっています。記録を伸ばした時には、体育館に子どもたちの歓声が響いています。



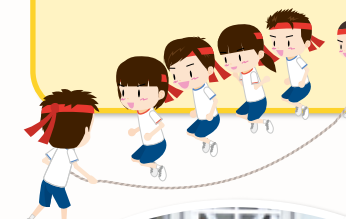
みんなで記録に挑戦

自分に挑戦！仲間と磨き合う特別クラブ

4年生以上の多くの希望者が参加し、夏には水泳、春と秋には陸上の練習を行っています。体力づくりや自己記録の更新をめざす特別クラブは、子どもの体力増進や個性の伸長につながるだけでなく、

健康な心と体づくり

満濃南小学校



仲間と磨き合う水泳・陸上練習

なく、スポーツの楽しさや達成感を味わわせることができ、たくましい心と体の育成につながっています。

健康な体を支える生活習慣の定着

規則正しい生活習慣を定着させるために、ゲームやインターネットの利用時間などを調べる「すこやかチェック」を定期的に実施しています。また、毎週月曜日には保健委員会が「さわやかチェック」を行い、つめの長さ、ハンカチやティッシュの持参を調べ、衛生面の定着もめざしています。

このほか外部講師を招いて、「適切な睡眠が作るから



保護者も一緒に姿勢づくり

だの健康」や「正しい姿勢の重要性」について、全児童と保護者が一緒に学ぶ機会を持っています。子どもが望ましい生活習慣を身につけるためには家庭との連携が必要です。今後も家庭と連携しながら、望ましい生活習慣の定着をめざしていきたいと思います。

健康な心と体を支える給食

まんのう町では、各学校に給食調理場があります。そのため、あたたかくおいしい給食を食べることが出来ます。地元の食材がふんだんに使われていて、そのおいしさは学校自慢のひとつです。

調理場からは、ガラス越しに子どもたちの配膳や食事の様子を見ることが出来ます。「ありがとございまして」と食缶を返す子どもの声も聞かれます。そして、調理員の温かいまなざしが子どもの健康な心と体づくりを支えています。



子どもを見守る調理員

健康な心と体は、ものごとに取り組み意欲や気力などの精神面の充実に深く関わっています。また、子どもの健全な発達・成長を支え、より豊かで充実した生活を送るためにも大変重要なものです。これからも、子どもの心と体を鍛える環境を整え、生活習慣を振り返りながら、家庭や地域と連携して子どもの健康な心と体を育てていきたいと思います。

四条こども園の園庭には大きなクスノキや桜の木があり、などらかな築山の上に登ると周辺の田畑が見えて四季折々の景色が楽しめます。そんな自然の中で子どもたちは異年齢の友だちや先生たちとクラスの枠を超えて楽しく園生活を送っています。

絵本がある幸せな時間

子どもたちの心豊かな成長を支えるために、読み聞かせの時間を大切にしています。降園前のみんなが集う時間はもちろん、子どもたちが「読んで」と絵本を持ってきた時は、読み聞かせをしています。



絵本、読んで

絵本が大好きな子どもたちの様子を保護者にも知ってもらいたいと思い、9月から月に一度親子で絵本を借りてもらうようにしました。子どもたちは、お家の方に読んでもらいたい絵本や見せてあげたい絵本と一緒に選ぶ楽しさなど、いろいろなことを感じているようです。



「えほんひろば」

町立図書館の司書が月に一度、地域ボランティア「あめんぼ」が年に一度、読み聞かせをしています。

子どもたちは、絵本の世界にときどきわくわくしたり、たくさんの人や物と出会ったりします。子どもたちは、絵本と幸せな時間を過ごし、心が豊かになっています。

たくさんの出会いを大切に

四条こども園



「あめんぼ」の読み聞かせ

マッド運動にチャレンジ



金メダル

友だちや先生だけでなく、絵本や地域の方などたくさんの人や物と出会うことによって、感じたり考えたりする心が育ちます。これからいろいろな出会いを大切にしていきたいと思っています。



野菜を切ったよ

そして、いよいよ当日。夕食の準備をしたり、選手になりきってゲームにチャレンジしたりしました。友だちと力を合わせて最後まで自分の力を出し切ることや、困ったことがあったら友だちに力を借りることなど、たくさんを学ぶことができました。

また、チャレンジ保育に向けて夕食のメニューを考え、一緒に買い物に行きました。そして、いよいよ当日。夕食の準備をしたり、選手になりきってゲームにチャレンジしたりしました。友だちと力を合わせて最後まで自分の力を出し切ることや、困ったことがあったら友だちに力を借りることなど、たくさんを学ぶことができました。

不登校児童生徒実態調査（文部科学省R2）を見ると、不登校になった理由はいろいろあり、そのため解決が難しくなっているようです。子どもたちは不登校になった結果、ほっとした気持ちもある反面、勉強の遅れや同級生からどう思われているのかに不安をもっています。「戻りたいけど戻れない」という心の揺らぎがあります。後になってもっと登校すればよかったと感じている人が多くなります。**怠けやさぼりではないのです。子どもたちは「心の安定」「心の居場所」を求めているのです。**

子どもたちの心の回復・改善のためには関係性と対話が重要です。子どものことを分かろうとする姿勢をもち、生きる力を奪わず、できることを増やす支援をしましょう。大事なのは、家庭・学校・その他関係機関などのどこかで子どもの心に寄り添い、子どもの心の居場所をつくり、そこで子どもが将来に向けてできることを見出し増やすことです。（講演より）

子どもに心の居場所を

不登校…再登校が解決？

行きたいけど行けない！ 苦しい気持ちに寄り添って！！

文部科学省調べによると、令和5年度の全国の不登校児童生徒数は、小・中学校で約34万人です。不登校は、取り巻く環境によってどの児童生徒にも起こり得るものです。また、その原因や背景が多様化・複雑化しており、学校だけでは対応が困難な場合も生じています。そこで、教育研究所では、町内小中学校の教員に向けて「hito.toco」代表の宮武将大氏から「不登校について考える～理解と支援 当事者の立場から～」の演題でオンライン講演会を行いました。その後、町適応支援センター「いくむ」の指導員から「いくむ」での取り組みや子どもたちの状況について聞きました。

「いくむ」に来ている子どもたちは、一人ひとり抱えている課題が異なります。ですから、同じ関わりはできません。また、子どもたちは登校できていないことに負い目を感じています。そこで、子どもの心に寄り添うことを第一にして、本人が挑戦したい、やりたいと思うことを支援するようにしています。

卒業生は「いくむ」のことを、「心を育ててくれる場所」「自分とどう向き合えばいいのかを考えられる場所」、つまり「心の居場所」だと感じています。また、どうすればいいのか悩んでいる保護者にも寄り添うように努めています。

講演を聴いた先生方の感想

不登校対応の目的は、その子どもが社会の中で自分らしく生きていくための力を育てることだと分かりました。学校に来ることがゴールではないことを念頭に置いて、子どもと接していきたいと思います。

「いくむ」は、子どもが自分のペースで安心して過ごす中で心にエネルギーを蓄える場所、安心できる居場所だと思いました。

「いくむ」に通級する子どもに、学校にいけない理由を聞かないという言葉が印象に残りました。学校に行けなくて苦しい気持ちやがんばりたいけどがんばれない気持ちを受け止め、生きる力をもてるように温かく支える場だと感じました。

不登校に対するイメージが変わりました。不登校だからといって何もしていないのではなく、さまざまな悩みや葛藤を抱えていることが分かりました。不登校は自己と向き合う時間だと思います。その時間を子どもと共有していきたいと思います。



一般社団法人 hito.toco (ヒトコ)

不登校・ひきこもりの支援を行う。主な事業は就労移行支援、相談、居場所活動、家族会など。所在地は高松市。代表 宮武将大氏（自身も不登校を経験）



「いくむ」指導員より

仲多度郡・善通寺市 小学生陸上記録会

入賞者 【第3位まで：①②③は順位を表す】

80mハードル

6女 ③ 小松 陽菜（満濃南） 16"63

100m

5女 ② 河口 胡海（高篠） 16"14

5男 ① 橋本 淳平（仲南） 14"96

② 中西 優真（仲南） 14"98

6男 ① 近石 優日（仲南） 13"57

400mリレー

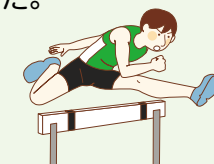
6男 ③ 仲南 57"21
（森末心・近石優日・小西蓮・竹下希隆）



10月9日：Pikaraスタジアム

出場した選手は、保護者、友だち、先生方の応援を受け、自己新記録をめざしました。

成績優秀者は、11月2日、3日に開催された香川県小学生選抜陸上競技大会に出場し、精一杯がんばりました。



走幅跳

6男 ② 間口 陽翔（仲南） 423cm

走高跳

5女 ① 栗尾 風歩（長炭） 111cm

ジャベリックボール投

5女 ① 鈴木 茉菜（仲南） 32.18m

5男 ② 栗田 泰成（四條） 42.03m

③ 高田凜之輔（四條） 40.44m

6女 ② 今井 結菜（満濃南） 33.18m



進む幼小接続研修

8月26日に実施した京都教育大学佐川早季子先生の研修会では、小学校とこども園が共通の願いをもち、子どもたちの声を引き出し活かす保育や授業を行うことが大切だ、ということ学びました。

2学期には、こども園の教員が小学校の生活科の授業を参観し、幼小接続についての学びを深めています。



スポーツの秋

町内のこども園では、運動会などで楽しくスポーツに取り組みました。



仲南こども園 運動会

長炭こども園 運動遊びの日



満濃南こども園 ふれあい運動会

今月の一枚



満濃南小学校

編集後記

毎年、原爆が投下された日を迎えるたびに、記憶の底から蘇ってくる写真があります。まっすぐ前を見つめ、直立不動で立つ少年。幼子をおびい、指先までびんと伸ばした手を体にぴたっとつけ、裸足のつま先は「気を付け」の形に開かれている。今では世界的に知られるようになった『焼き場に立つ少年』です。

私がこの写真に初めて出会ったのは、20年ほど前のこと。その時の衝撃は忘れることができません。少年がおぶっているのは息絶えた弟。少年は、この弟を茶毘に付すための順番を待っているのです。深い悲しみと絶望を必死にこらえ、懸命に毅然とした態度を保とうとする健気な姿。この子の親はどこにいるんだろう。この子はその後どうやって生きていくんだろう…。様々な思いが尽きることなく湧き上がってきて、この1枚は、私の心の奥底に重く沈んでいきました。



毎日新聞 (2006.7.17付)

この写真は、米海兵隊のカメラマンとして来日したジョー・オダネル氏が、1945年に長崎で撮影したものです。しかし、1946年に帰米した彼は、私用カメラで撮影したこれらおよそ300枚の写真のネガを、悲慘な記憶とともにトランクにしまい込み、封印してしまいました。

彼がその封印を解く覚悟を決めたのは、40年余りが経った1989年のこと。以来85歳で亡くなるまで、世界各地で写真展を続けました。写真集『トランクの中の日本：米従軍カメラマンの非公式記録 (小学館/1995)』には57点が収録されていますが、その中でオダネル氏は、写真一枚一枚について撮影時の体験を語っています。

『焼き場に立つ少年』では、焼かれる弟の炎を前に立ちつくす少年の様子を、「一度も焼かれる弟に目を落とすことはない。軍人も顔負けの見事な直立不動の姿勢で彼は弟を見送ったのだ」と回想しています。「私はカメラのファインダーを通して、涙も出ないほどの悲しみに打ちひしがれた顔を見守った。私は彼の肩を抱いてやりたかった。しかし声をかけることもできないまま、ただもう一度シャッターを切った」とも。オダネル氏は2007年、奇しくも長崎原爆忌に亡くなりました。

まだあどけなさの残る少年が体験したこと、それはあまりに凄惨です。本来なら大人によって社会の荒波から守られるはずの子ども。その子どもが、大人でも耐え難いような、想像を絶する体験に晒されていたのです。子どもが子どもとして、子どもらしく生きられるのが「平和」なのでしょう。その「平和」を、私たちは何としても次の世代に残していかなばなりません。

(Y. T)

表紙絵：岡田 希愛 (満濃中学校美術部3年)

次号予告
(2月1日発行)

特集
園・学校ウォッチング

語りかける掲示

四条小学校・高篠こども園